

## 活動状況報告（2月）

学生留学コース 5期生 幡谷 省悟

私は11月からウィスコンシン大学マディソン校での研究を本格的に開始しました。引き続き植物の窒素代謝の解明を目的とした研究を行っています。先月までの実験で、解析に用いる酵素の合成及び精製がほとんど完了したため、今月はモデル植物であるシロイヌナズナと大腸菌のアミノ基転移酵素を対象に網羅的な酵素機能解析を行いました。この解析は昨年11、12月に学んだ手法をもとに実行しました。Koper博士から助言をもらうこともありますが、基本的には独立して実験できるようになってきました。

また、今月もこれまでと同様に、Maeda教授、Koper博士とのミーティング、ウィスコンシン大学マディソン校の研究室が行っている植物学に関するセミナーに毎週参加しました。

今月は北海道大学大学院国際食資源学院の修士論文発表会がありました。発表、質疑応答ともに英語でしたが、留学開始前より緊張せずに臨むことができました。これは、本留学のおかげだと思います。3月に帰国するというのもうMadisonへの滞在も残り少なくなり焦りもありますが、可能な限り多くのことを学んで帰国できるように、引き続き研究を頑張っていきます。

いまのところ、日本食が恋しくなること以外はほとんどなんの不便もなく楽しく生活できています。まだ終了したわけではありませんが、5ヶ月という滞在期間は短かったと感じています。より長期であれば、英語や現地の環境に慣れてからの期間も長くなるため、より楽しめるのではないかと考えています。そのため今後留学するという方には、できれば半年以上の期間留学することをおすすめしたいと思います。

Koper博士との写真を添付します。

